





本市は、伊勢神宮御鎮座のまちとして栄え、悠久の時を刻む神宮林や大台ヶ原を源にする清流宮川などの豊かな自然や、先人たちが育んできた歴史や文化に富んだまちです。また、年間 800 万人を超える観光客にお越しいただき、まちは賑わいを醸し出しています。

その一方、他の地方都市と同様、人口減少、少子高齢化が進行し、持続可能なまちづくりにとって大きな課題となっています。

さらに、価値観の多様化や家族形態の変容等に伴う地域社会のつながりの希薄化は、まちが備えていた互助機能を低下させ、迫り来る大地震や社会的孤立の増加等と相まって、市民の生活不安へとつながっています。

こうした社会情勢の変化を踏まえ、伊勢市の特性・潜在力を活かしたまちづくりを、市民と行政が一体となり総力を挙げて進めることで、活力と魅力に溢れる持続可能なまち「伊勢市」の実現につながるものと考えます。

そこで、市民の皆様と共有するまちづくりの行動指針として、2029 年度を目標年次とする第 3 次伊勢市総合計画を策定し、「私たちが担うまち」「人と人とのつながりで活力と安心を感じられるまち」「地域の誇りをつなぐまち」をまちづくりの基本理念に据え、「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」を本市が目指す将来像として基本構想に掲げました。

この 3 つのまちづくりの基本理念を常に意識し、未来を担う子どもたちへの教育、誰もが安心して暮らせるための地域医療・福祉、都市基盤整備や観光、産業の振興など各政策分野の施策に取り組むとともに、人口減少や自然災害の備えなど大きな課題については、政策分野の枠を越えて連携し、取り組んでまいりたいと存じます。

そして、市民の皆様とまちづくりの基本理念を共有し、ともに考え、様々な「つながり」によって誇りと安らぎを育み、子どもたちの笑顔があふれ、幸せに年齢を重ねられるまちづくりを進めてまいります。

市民の皆様の一層の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

おわりに、本計画の策定に当たり、慎重かつ熱心に御審議いただきました伊勢市総合計画審議会の委員の皆様をはじめ、地域審議会や伊勢市子ども未来会議、市民意識調査やワークショップ、パブリックコメントなどを通じて貴重な御意見をいただきました市民の皆様並びに関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成 30 年 7 月

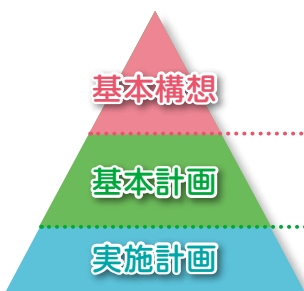
伊勢市長 鈴木健一

### 伊勢市総合計画とは

伊勢市が行う政策や事業の根拠となる最上位計画となるもので、まちの将来像やまちづくりの基本理念を明らかにし、市政運営の基本的方向を示すものです。

### 計画の構成と期間

第 3 次伊勢市総合計画は、基本構想・基本計画・実施計画の 3 層により構成します。



構成	概要	計画期間
基本構想	市の目指すべき将来像及び将来像を実現するための基本理念等を示したもの	2018～2029 年度 (12 年間)
基本計画	基本構想を実現するための施策の基本的な方針等を体系的に示したもの。計画期間は 4 年間とし、前期計画と中期計画と後期計画を策定します。	前期基本計画 2018～2021 年度 (4 年間)
実施計画	基本計画に掲げる施策を推進するための具体的な事業を示したもの	2 年間の計画、 毎年度見直し

# 基本構想

市の目指すべき将来像及び将来像を実現するための  
基本理念等を示したもの  
計画期間：2018年度～2029年度（12年間）

古来、気候風土が穏やかなこの伊勢の地は、風光明媚で海、山、里の幸に恵まれ、「<sup>うま</sup>美し国」と呼ばれてきました。先人たちが守り続けてきた自然や伝統、培われてきた文化やおもてなしの心、そしてそれらが醸成するまちの誇りを受け継ぎ、さらに次世代へ継承していくことが、今を生きる私たちの責務です。

また、人口減少、少子高齢化、核家族化の進展等が招く生活への不安や、予測される地震などの自然災害への不安を解消し、安心できるまちづくりが必要となっています。

そして何よりもまちづくりの主役である市民が、伊勢のまちに誇りと愛着を持ち、夢や希望を抱いていきいきと輝き暮らし続けられるまちをつくる必要があります。

「住みたい」「住み続けたい」「訪れたい」と誰をも魅了する、憧れのまちであり続けるために、3つの「まちづくりの基本理念」を次のとおり掲げます。

## まちづくりの基本理念

### 私たちが担うまち ～伊勢<sup>いせびと</sup>人の心意気～

市民と行政がお互いに役割を認め合うなかで、市民誰もが主体者として活躍できるまちを目指します。

### 人と人とのつながりで活力と安心を感じられるまち ～おかげさまの心～

時代とともに培われた「おもてなしの心」や、家族・地域・社会における「思いやりの心」「支えあいの心」を大切に、「おかげさまの心」を育む人と人とのつながりで活力と安心を感じられるまちを目指します。

### 地域の誇りをつなぐまち ～神宮ゆかりの地～

常に原点に立ち帰りながら、絶えず新たに生まれ変わり続ける神宮の式年遷宮のように、先人から受け継いだこの豊穡の地を次世代へとつなぎ、これからも国内外から親しまれるとともに、市民がまちへの誇りと愛着を持ち続け、将来にわたって住み続けたいと思えるまちを目指します。

3つの「まちづくりの基本理念」を踏まえ、人と人、地域と地域、過去と未来をつなぎ、本市が目指すまちの将来像を以下に定めます。

## まちの将来像

つながりが誇りと安らぎを育む  
魅力創造都市 伊勢

# 前期基本計画

基本構想を実現するための施策の基本的な方針等を体系的に示したもの  
計画期間：2018年度～2021年度（4年間）

基本構想に掲げるまちの将来像の実現に向け、前期基本計画では、政策分野を8つに分け、分野別計画を置き、それぞれを「章」として位置づけています。また、7つのまちづくりの主要課題は、各政策を横断する重点的な課題として位置づけています。



各章の目指す姿の実現に向けて、8つの政策分野のそれぞれの取組を進めるとともに、7つのまちづくりの主要課題の解決のために、それぞれの政策分野を越えて連携し、子どもたちの笑顔があふれ、お年寄りが幸せな老後を暮らせるまちづくりを進めます。

子どもたちの笑顔があふれ（笑子）、  
幸せに年齢を重ねられる（幸齢）まちづくり  
～笑子・幸齢化のまちづくり～

# 前期基本計画 (分野別計画)

## 第1章 ● 市民自治・市民交流

### 目指す姿

市民が自分たちのまちのことを考え、行動できるまち

施策	施策の取組方針	目指す4年後の数値指標	
			基準値
地域コミュニティ	地域の連携を深め、地域活動を活性化します	地域活動に参加したい市民の割合 42%	37% (平成29年度)
市民活動	個人やNPO等の市民活動を促進します	市民活動団体数 200団体	182団体 (平成28年度)
人権尊重・男女共同参画	人権意識を高めるとともに、心のバリアフリーを推進します	人権を侵害されたと思う市民の割合の減少 5ポイント減	16% (平成29年度)
国際交流・多文化共生	国際理解を深めるとともに、多様な文化を認め合えるまちづくりを進めます	市民の国際交流への関心度 50%	45% (平成29年度)

### この4年間で取り組む主な課題

- 地域自治に主体的に参画する機運の向上
- 市民活動に対する市民意識の醸成
- 人権啓発活動への参加促進
- 国際交流、多文化共生社会の理解の推進

## 第2章 ● 教 育

### 目指す姿

郷土を愛し、夢と意欲を持ち未来を切り拓く人づくりのまち

施策	施策の取組方針	目指す4年後の数値指標	
			基準値
学校教育	心豊かでたくましい子どもたちが育つ教育環境づくりを進めます	子供たちの学校生活満足度 小学生 68.0% 中学生 72.0%	小学生 63.9% 中学生 69.5% (平成29年度)
社会教育	生涯にわたり学習できる環境の充実を図ります	市民1人当たりの社会教育施設の年間利用回数 2.20回	1.76回 (平成28年度)
スポーツ	ライフステージに合わせてスポーツを楽しむ環境の充実を図ります	週1回以上スポーツ(運動)を行っている市民の割合 43.0%	32.3% (平成29年度)
文化	郷土愛を醸成するとともに伊勢らしい文化・芸術の振興を図ります	文化・芸術事業の満足度 80.0%	なし

### この4年間で取り組む主な課題

- 確かな学力と社会参画力の育成
- 豊かな心の育成
- 子ども読書活動の推進
- スポーツ活動の充実
- 文化施設の整備と利用推進

## 第3章 ● 環 境

### 目指す姿

豊かな環境を将来につなぐまち

施策	施策の取組方針	目指す4年後の数値指標	
			基準値
循環型社会	資源の有効活用及び循環型のまちづくりを進めます	市民1人1日当たりの家庭系燃えるごみ排出量 540.77g	562.67g (平成28年度)
環境保全	豊かな自然を守り快適な生活環境と調和のとれたまちづくりを進めます	勢田川BOD値 3.0mg/ℓ	6.1mg/ℓ (平成28年度)
環境教育	環境を守り育てる文化の醸成を図ります	レジ袋辞退率 93.0%	90.7% (平成28年度)

### この4年間で取り組む主な課題

- ごみの発生抑制
- 下水道・合併処理浄化槽の普及
- 学校教育における環境教育の充実

## 第4章 ● 医療・健康・福祉

### 目指す姿

誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるまち

施策	施策の取組方針	目指す4年後の数値指標	
			基準値
医療・健康	誰もがいつまでも健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます	健康寿命の延伸 男性 79歳 女性 83歳	男性 77.8歳 女性 80.3歳 (平成27年)
地域福祉	地域みんなで支え合うまちづくりを進めます	暮らしの中で困りごとがあったとき相談するところがある市民の割合 90%	80.6% (平成29年度)
共生	誰もが自分らしく暮らせるまちづくりを進めます	障がいの有無に関らず、誰もが暮らしやすいまちであると感じている市民の割合 60%	20% (平成29年度)
子育て支援	全ての子どもたちが健やかに成長できるまちづくりを進めます	伊勢市は子育てしやすいまちであると感じている市民の割合 60%	47% (平成29年度)
高齢者福祉	高齢者がいきいきと暮らせるまちづくりを進めます	高齢者の生きがいづくりや介護サービスが充実したまちであると感じている市民の割合 60%	24% (平成29年度)

#### この4年間で取り組む主な課題

- 妊娠期から子育て期への切れ目ない支援の充実
- 身近な生活圏域に誰もが気軽に立ち寄り、相談できる窓口の設置
- 地域を支える人材・グループの支援、育成により地域の担い手となる資源の確保
- 地域で支える子育ての環境づくりの推進
- 地域包括ケアシステムの強化
- 地域医療連携の推進（市立伊勢総合病院）
- 包括的な相談支援体制の構築
- 障がいの理解促進と障がい者差別の解消
- 就学前の子どもへの教育・保育の充実
- 一人親家庭の自立支援

## 第5章 ● 防災・防犯・消防

### 目指す姿

みんなで築く安心して暮らせるまち

施策	施策の取組方針	目指す4年後の数値指標	
			基準値
防災・減災	市民の防災意識を高め、災害に備える地域づくりを推進します	避難所運営マニュアル策定の地域数 6地域	2地域 (平成29年度)
防犯	市民の防犯意識を高め、犯罪被害防止対策を推進します	刑法犯認知件数減少率 (平成28年比) 5%	748件 (平成28年)
消防・救急	火災などの災害から市民を守る消防・救急体制の整備を推進します	伊勢市の消防力・救急体制に満足している市民の割合 90%以上	消防力 93% 救急体制 86% (平成29年度)
交通安全	交通安全意識の高揚を図り、交通事故抑止を推進します	交通事故の人身事故発生件数減少率 (平成28年比) 15%	412件 (平成28年)

#### この4年間で取り組む主な課題

- 地域防災力の向上
- 救急体制の充実
- 防犯意識の醸成
- 「選ばれるまちづくり」に向け、交通安全教育、広報啓発などの交通安全活動の推進
- 消防体制の充実

## 第6章 ● 産業・経済

### 目指す姿

産業活動が活発で活力と賑わいにあふれるまち

施策	施策の取組方針	目指す4年後の数値指標	
			基準値
農林水産業	地元産物の魅力を生かし、持続可能な農林水産業を振興します	農業就業者数(※)の維持 減少率0% 漁業就業者数の維持 減少率0% ※認定農業者数及び認定新規就農者数	農業就業者数 130名 漁業就業者数 704名 (平成28年度)
商工業	中小企業・小規模事業者の発展を促します	伊勢市の商業について、活気があると感じている市民の割合 40%	25.1% (平成29年度)
観光	さまざまな観光客を迎え入れ、賑わいがあふれるまちを目指します	神宮参拝者数 900万人	879.8万人 (平成29年)
就労・雇用	働きたい人が働ける環境づくりを進めます	①有効求人倍率 1.0倍以上 ②4年間の企業立地件数 4件以上	①平均1.42倍 (平成28年度) ② なし
消費者行政	消費者が安心・安全に暮らせるまちをつくります	伊勢市消費生活センターの認知度 60%	42.4% (平成29年度)

#### この4年間で取り組む主な課題

- 特色ある安全・安心な農産物づくりの推進
- 中小企業の支援
- さまざまな人達に届く情報発信
- 求職者又は就職を考えている人の就職に向けた知識・資格の取得
- 消費者教育・啓発の推進

## 第7章 ● 都市基盤

### 目指す姿

誰もが安心して快適に暮らせる魅力あるまち

施策	施策の取組方針	目指す4年後の数値指標	
			基準値
道路	幹線道路及び生活道路の整備を推進します	身近な生活道路の整備に満足している市民の割合 35%	33% (平成29年度)
交通環境	移動しやすい交通環境の整備を推進します	地域の路線バスやバス路線のない地域の移動の手段の確保に満足している市民の割合 23%	18% (平成29年度)
河川・排水	河川・排水施設を良好に保全します	長寿命化に着手したポンプ場の割合 88% (31箇所/35箇所)	11% (平成29年度)
住環境	市民が住んでいたいと感じる住環境の整備を推進します	伊勢市に住み続けたいと思う市民の割合 88%	83% (平成29年度)
市街地整備	中心市街地の都市機能の増進及び経済活力の向上を推進します	中心市街地の商店街の歩行者通行量 2,780人	2,751人 (平成28年度)
上水道・下水道	安全・安心な水の供給と、快適な生活環境の整備を推進します	①水道耐震管延長 184km ②下水道を利用できる区域の人口 69,300人	① 151.4km ② 65,356人 (平成28年度)

#### この4年間で取り組む主な課題

- 橋梁長寿命化の推進
- 通学路の安全対策
- 地域公共交通の充実
- 水位計の設置による水位情報の発信
- 空家等対策計画の推進
- 地籍調査事業の推進
- 中心市街地の賑わいの創出
- 水道管路の耐震化
- 下水道普及率向上

## 第8章 ● 市役所運営

### 目指す姿

市民から信頼される市役所

施策	施策の取組方針	目指す4年後の数値指標	
			基準値
行財政運営	積極的に情報発信するとともに、持続可能な行財政運営を進めます	①知りたい情報が提供されていると感じている市民の割合 60%以上 ②経常収支比率 90.0%以下	① 34.9% (平成24年度) ② 91.8% (平成28年度)
行政組織力	職員のプロ意識を向上させ、行政全体の組織力強化を推進します	市職員が責任感を持って業務に取り組んでいると感じている市民の割合 60%	なし

#### この4年間で取り組む主な課題

- 市政情報の積極的な発信
- 総合計画に基づく効率的、効果的な行財政運営
- シティプロモーションの推進
- 信頼される職員・組織づくり

第3次 伊勢市総合計画 基本構想・前期基本計画（概要版）

---

平成30年7月

発行：伊勢市

編集：伊勢市情報戦略局企画調整課

〒516-8601

三重県伊勢市岩渕1-7-29

TEL 0596-21-5510

FAX 0596-21-5522

E-mail [kikaku-cyousei@city.ise.mie.jp](mailto:kikaku-cyousei@city.ise.mie.jp)